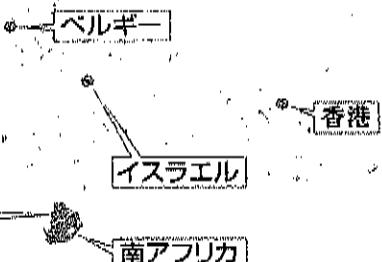


WHO「再感染の危険性増す」

WHO「再感染の危険性増す」

【ジュネーブ共同】世界保健機関（WHO）は二十六日、南アフリカなどで確認された新型コロナウイルスの新たな変異株を、最も警戒レベルが高い「懸念される変異株（VOC）」に指定し、「オミクロン株」命名した。指定により世界的な警戒対象となり、監視態勢が強化される。＝新規型コロナ関連③④⑤面

オミクロン株の確認により、欧米を中心にアフリカ南部からの渡航を制限する動きが拡大するなど各国は



WHO指定の懸念される新型コロナウイルス変異株

名称	最初に確認された国・地域	◆従来比の特徴
アルファ	英国	◆約1.5倍の感染力 ◆重症化リスク増
ベータ	南アフリカ	◆感染力高い
ガンマ	ブラジル	◆感染力高い
デルタ	インド	◆約2倍の感染力 ◆ワクチン効果減か
オミクロン	アフリカ南部	◆感染力高く、ワクチン効果減の恐れ

※WHOなどによる

警戒態勢に入った。日本政府も水際対策強化の対象として、新たにザンビアなどアフリカ三カ国を追加。南アと近隣五カ国を含めて計九カ国となつた。

オミクロン株には免疫を回避し、ワクチンの効果を低下させるとの懸念も出ている。米モデルナやファイ

ザーなどは相次いでワクチンの有効性を調べ、効かない場合は変異に対応した修正ワクチンの開発などを意

ぐと表明した。

WHOは二十六日の専門

家による協議で、オミクロン株について「数多くの変異が生じており、いくつかの変異は大変懸念されるも

のだ」と指摘。現時点で判明している科学的根拠から「他のVOCと比較して、再感染の危険性が増していることを示している」とし、た。従来のPCR検査で検定されたのは現在、流行の主流となっているデルタ株とオミクロン株を含め五種。

日本の国立感染症研究所出可能だった。VOCに指

定されたのは現在、流行の「スパイクタンパク質」に三十万所の変異が生じており「細胞への侵入しやすさに関連する可能性がある」としている。

新変異株が確認された
主な国・地域
※諸国情報による

新型コロナウイルス変異株 増殖時に遺伝情報が書き換わって変異した新型コロナウイルス。感染力が強まつたり症状が重くなつたり、ワクチンや薬が効きにくくなることがある。厚生労働省によると約2週間に1カ所のベースで変異が認められる

(共同)